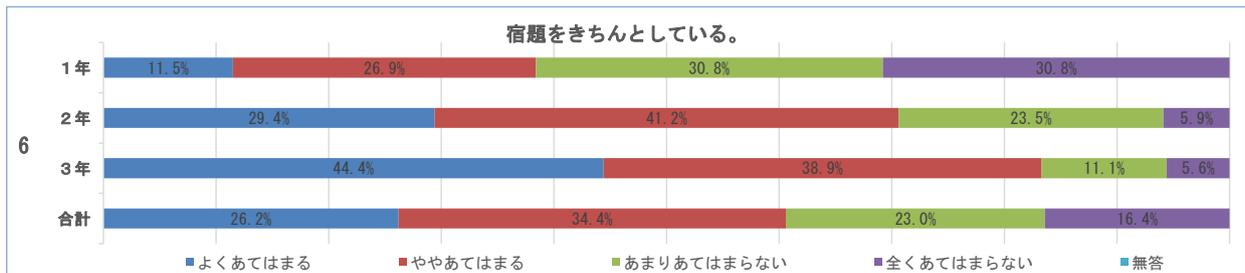
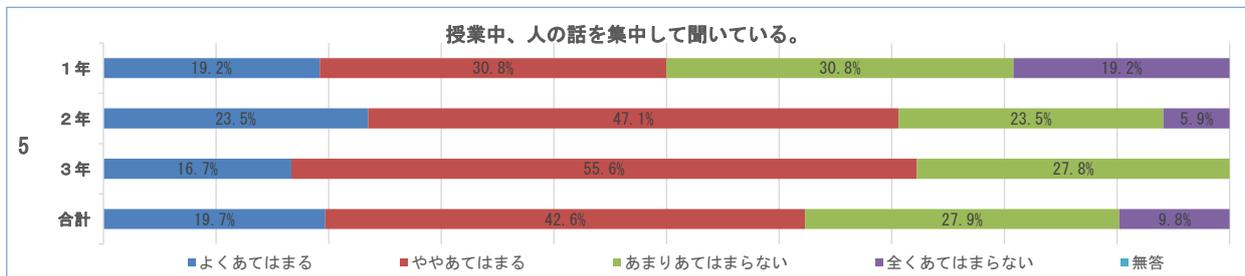
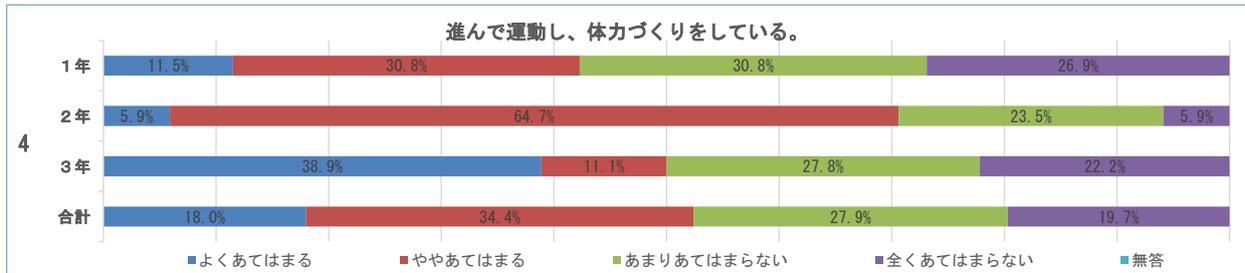
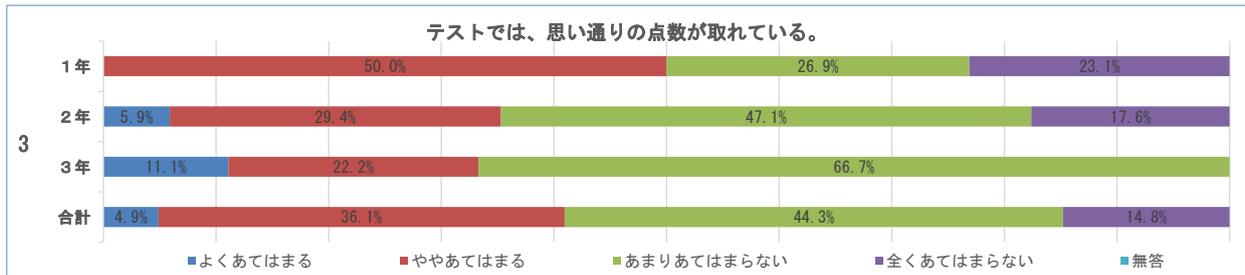
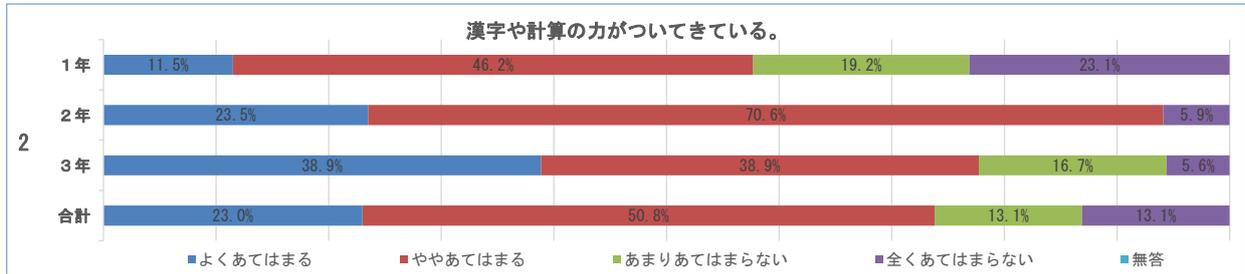
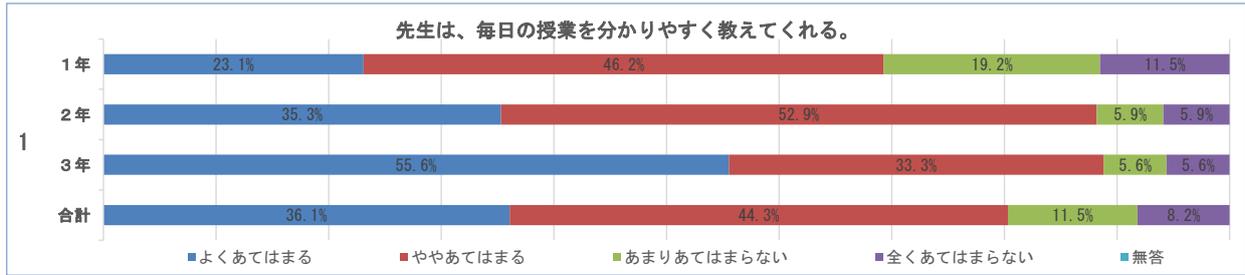


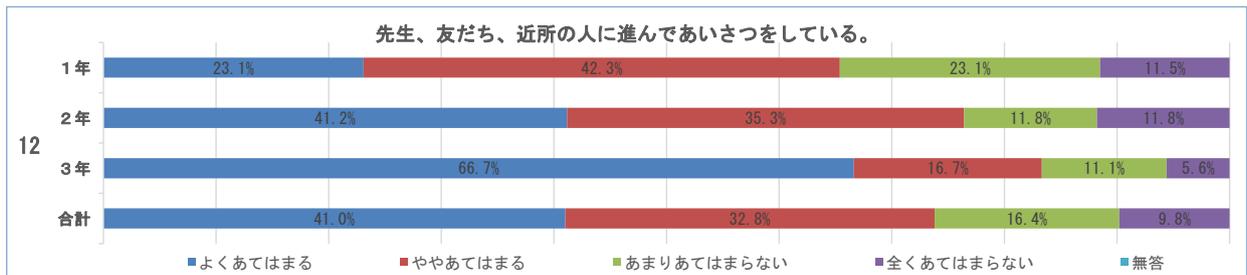
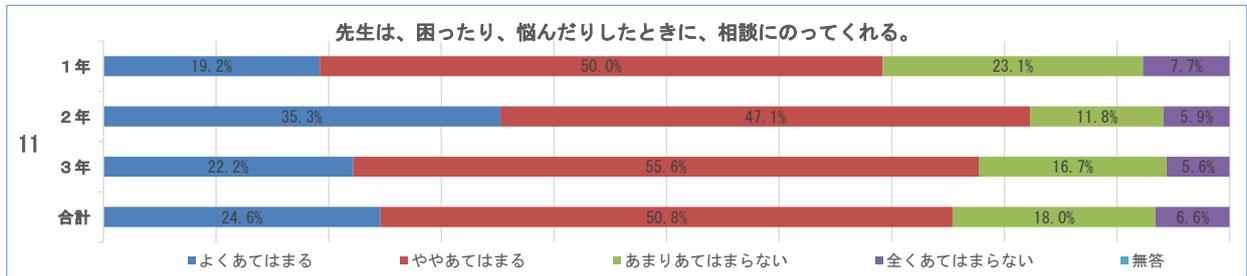
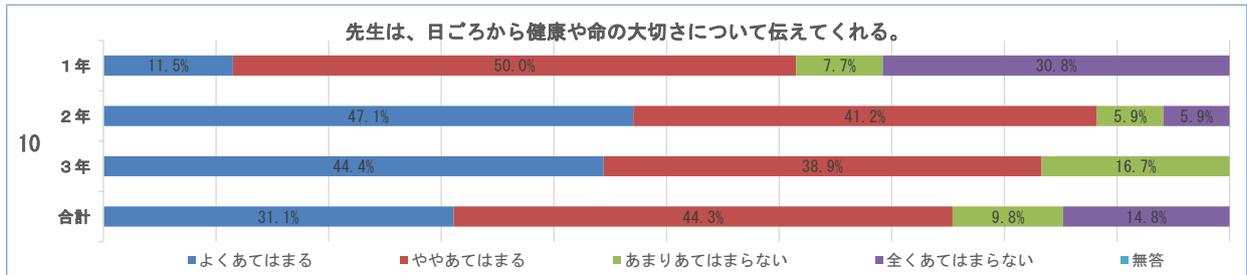
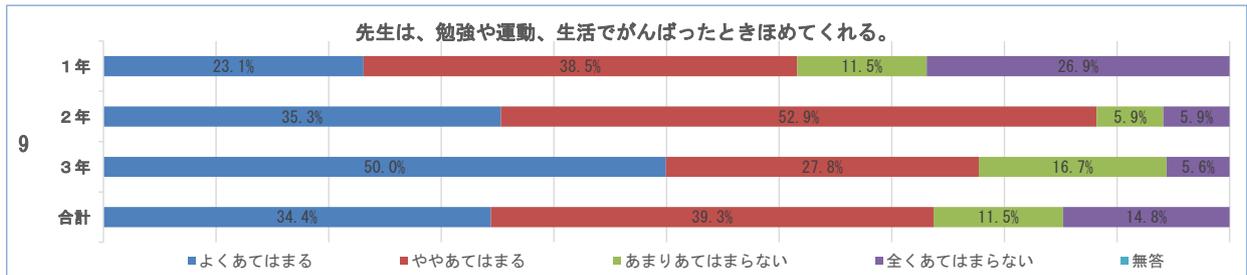
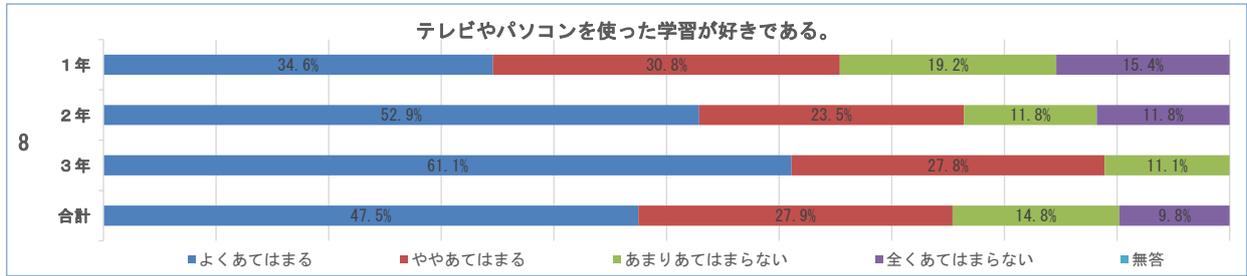
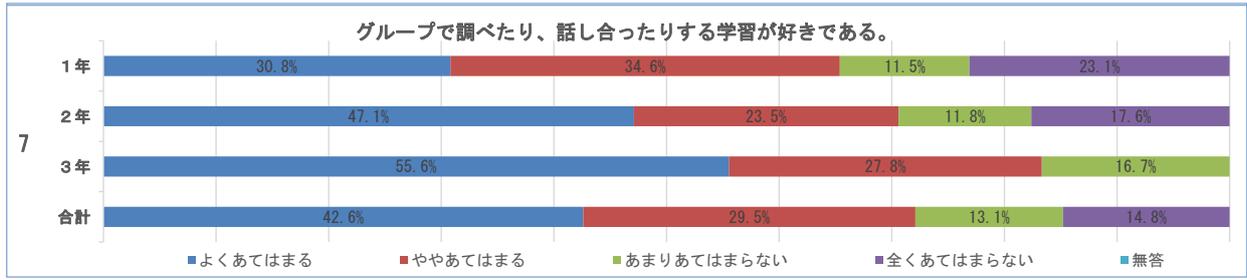
学校評価アンケート

瀬戸中学校（生徒）



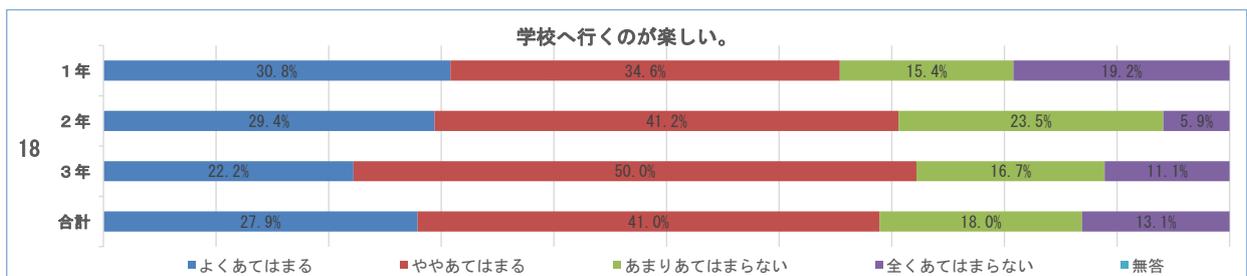
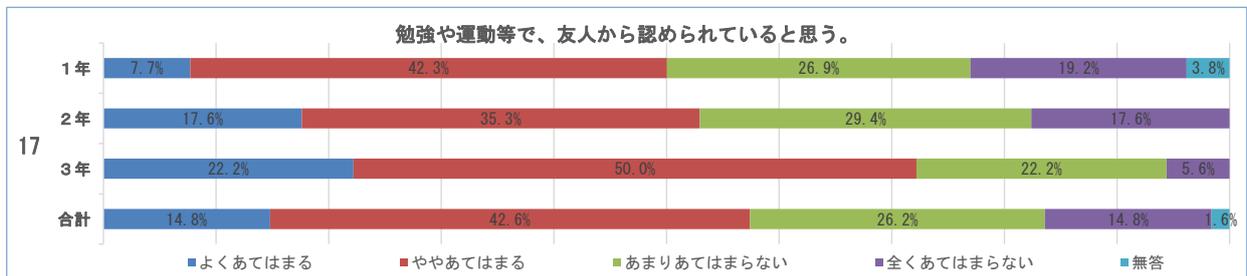
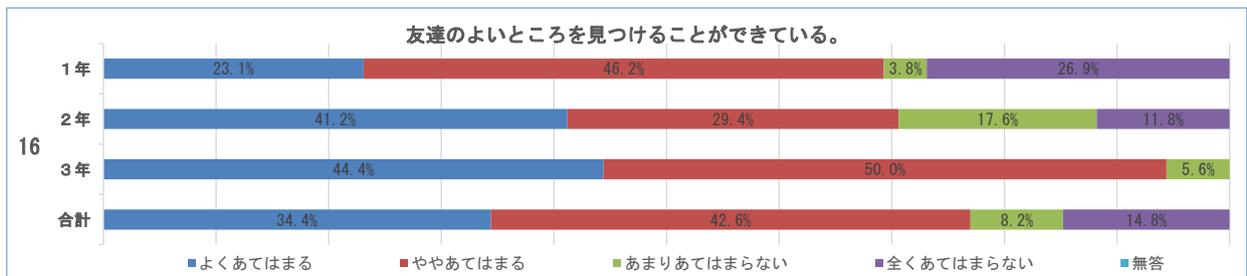
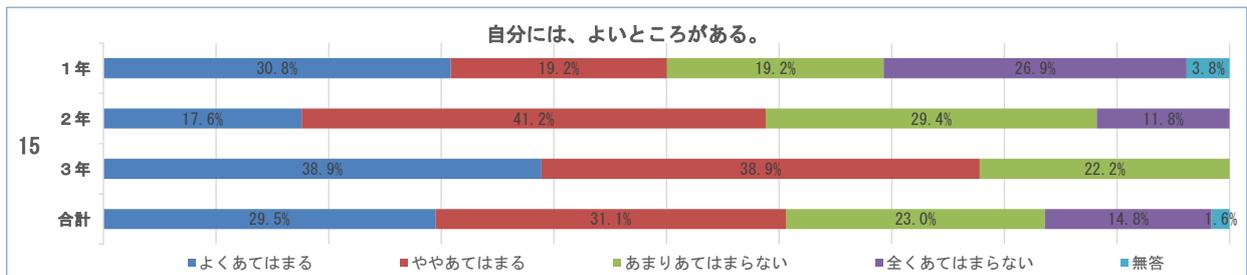
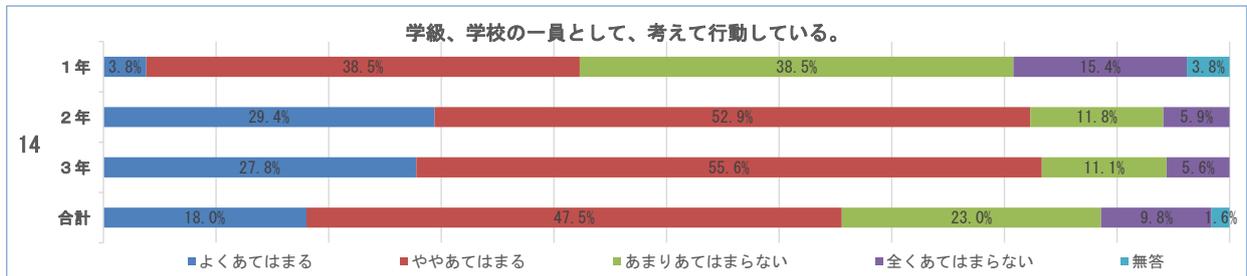
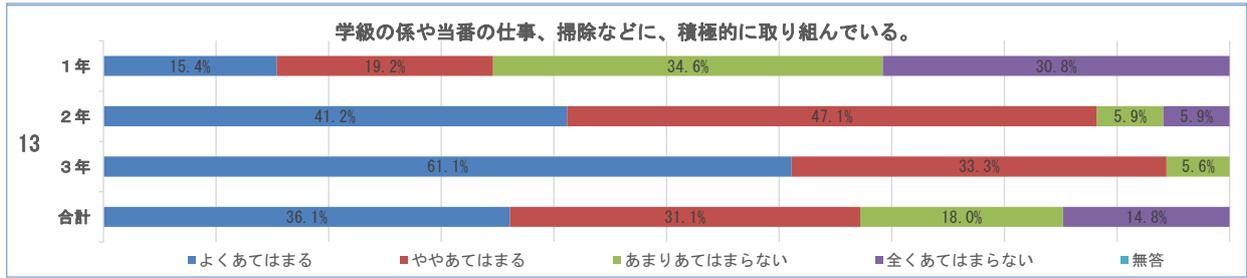
学校評価アンケート

瀬戸中学校（生徒）



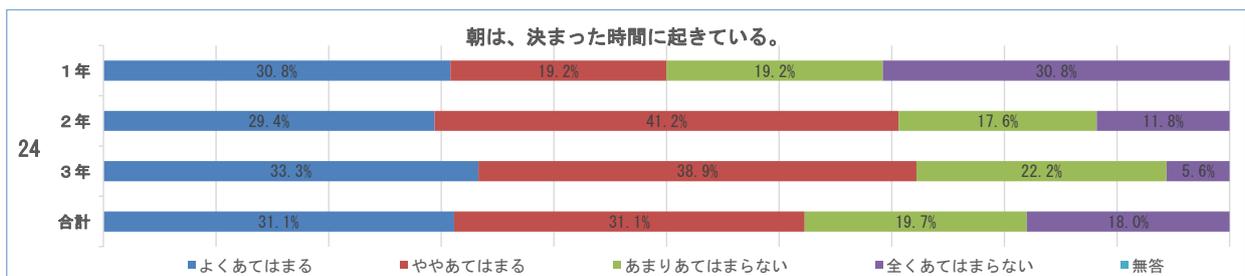
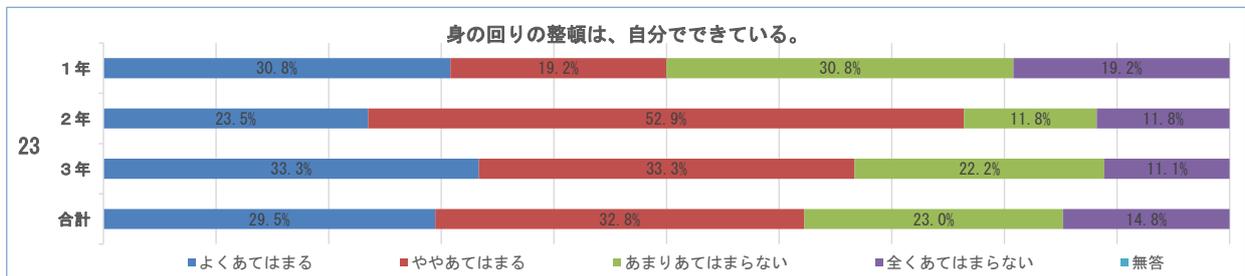
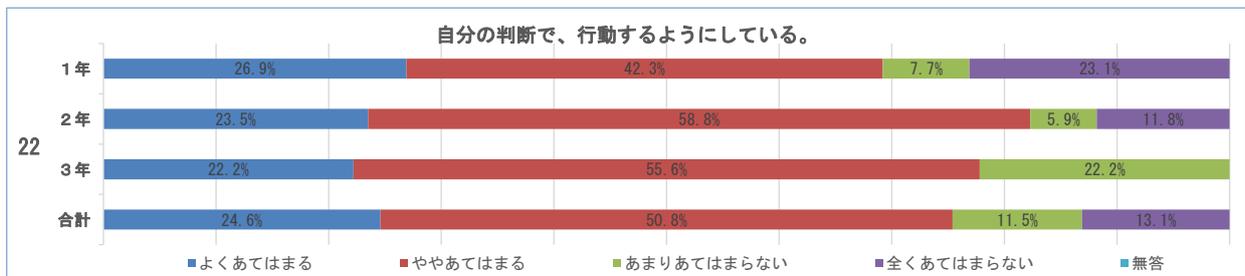
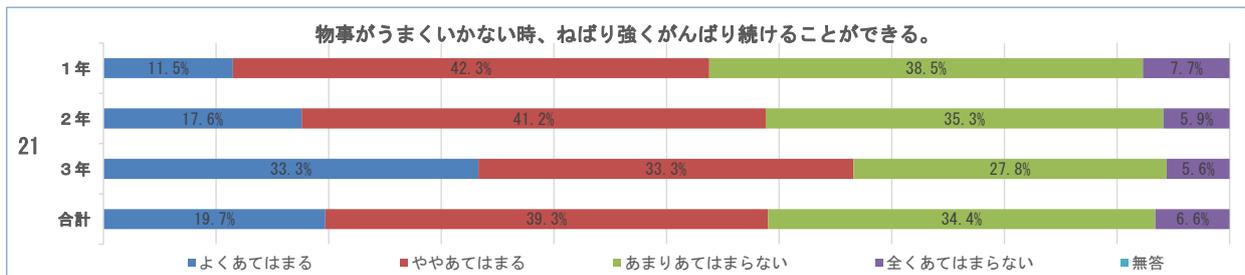
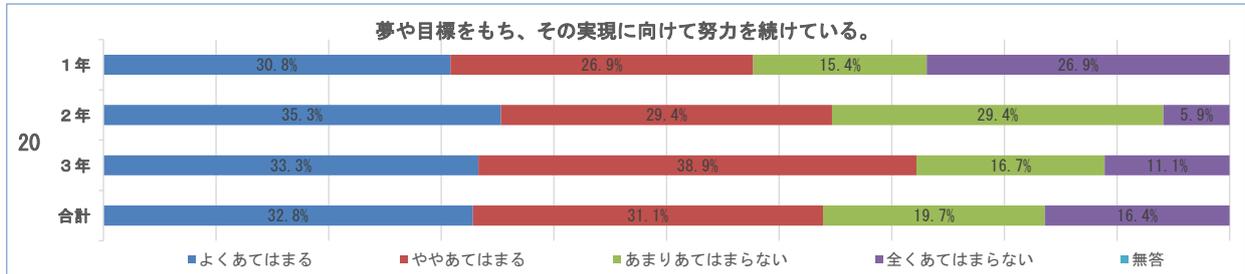
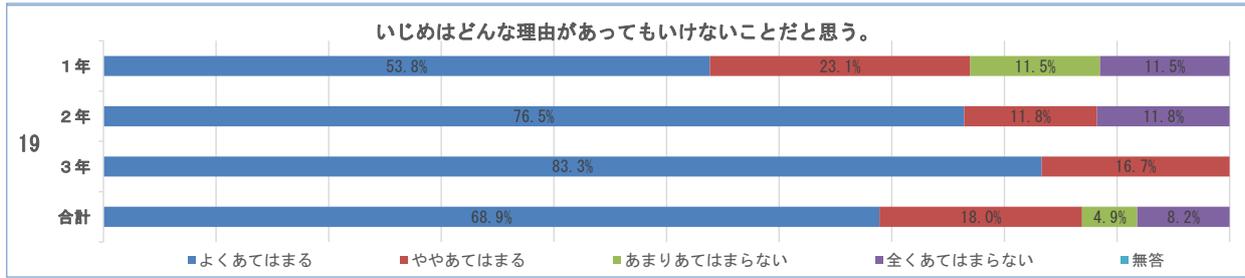
学校評価アンケート

瀬戸中学校（生徒）



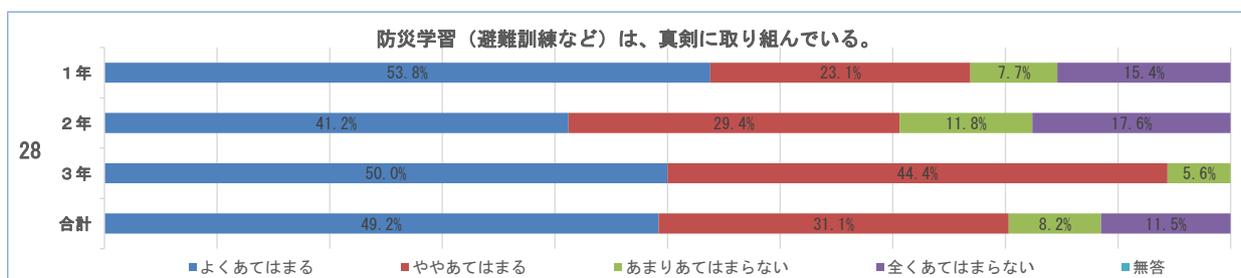
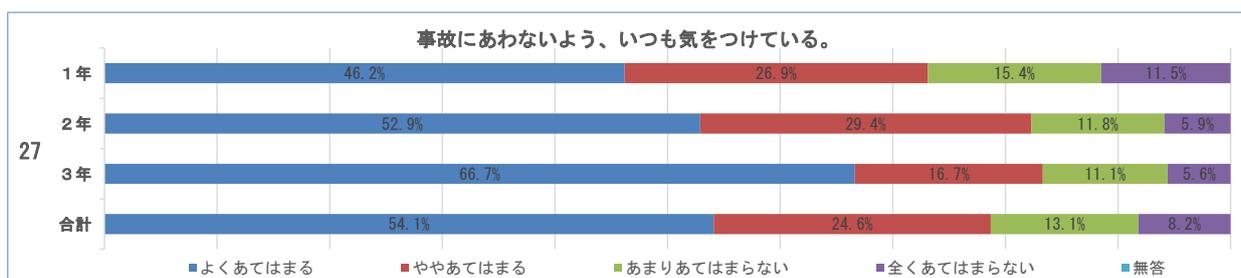
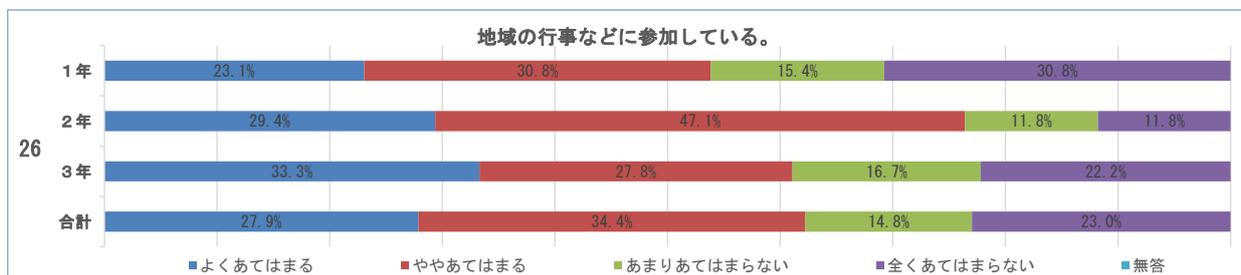
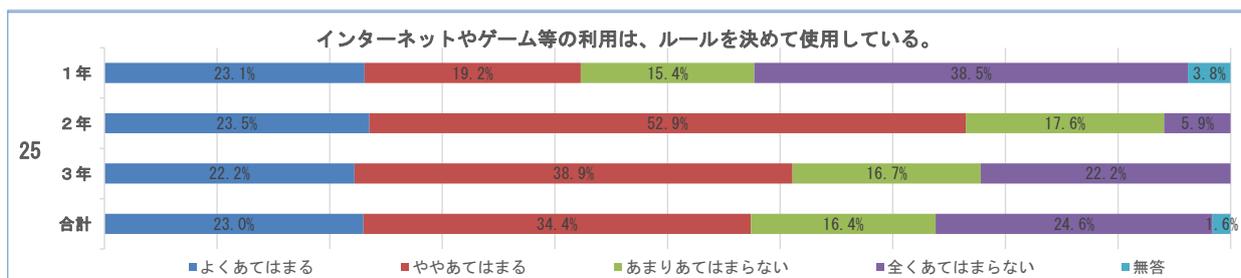
学校評価アンケート

瀬戸中学校（生徒）



学校評価アンケート

瀬戸中学校（生徒）



「生徒の調査について」

生徒全体のアンケート集計結果では、それぞれの分野で「よくあてはまる」「ややあてはまる」において、概ね満足できる割合が昨年度の集計結果を下回っています。生活面では、生徒指導体制のさらなる充実を図ることを次年度の最優先事項に掲げ、生徒と教職員が向き合う時間の確保に取り組んでいきます。その上で、学習面では、各教科において、T.Tや個別支援の充実、きめ細かな支援を行い、「わかる・できる」授業を実践していきます。また、学校からの情報発信力（マチコミ等でもこまめに連絡）を向上させ、さまざまな活動を通してキャリア教育の推進を図り、地域社会と協力・連携した取り組みを行っていきます。学校での取り組みが成果として現れるには、ある一定の時間が必要です。これまでの取り組みをさらに強化するとともに、生徒への優しさ・厳しさの両面から見直しを進め、歩んでいきたいと思えます。

「学力・学習指導」の分野（設問1～8）

各教科では、タブレット端末等を活用した授業を実践し、基礎・基本的な学習内容の定着に取り組んでいます。設問項目3「テストでは、思い通りの点数がとれている」では、昨年度から概ね満足できる割合が12.2%増加しており、自己の課題の解決に取り組んでいる成果だと考えます。一方で、設問項目5「授業中、人の話を集中して聞いている」、設問項目6「宿題をきちんとしている」では、昨年度から概ね満足できる割合が12～13%減少しました。生徒が主体的に学習に取り組めるよう、個別最適な学びや協同的な学びについて研修を行い、共通理解を図ります。そして、家庭学習の意義指導も含め、保護者との連携を密にし、生徒が学習に粘り強く取り組めるように支援していきます。

また、設問項目1「先生は毎日の授業を分かりやすく教えてくれる」では、昨年度に引き続き、概ね満足できる割合が80%を超えています。さらに、設問項目4「進んで運動し、体力づくりをしている」では、昨年度より概ね満足できる割合が3.1%増加しました。生徒一人一人が運動に親しむ習慣が身につけてきており、体育の学習を楽しみ、体力向上に向けた取り組みの成果であると考えます。

今後も「タブレット端末」「電子黒板」「体力向上」「幼小中一貫教育」等の取り組みを活かした授業等を実践し、生徒の学力・体力の向上に努めていきます。

「学校生活・生活指導」の分野（設問9～14）

設問項目11「先生は、困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる」、設問項目13「学級の係や当番の仕事、清掃などに、積極的に取り組んでいる」、設問項目14「学級、学校の一員として、考えて行動している」では、昨年度から概ね満足できる割合が大きく減少しました。また、設問項目10「先生は、日頃から健康や命の大切さについて伝えてくれる」では、昨年度から概ね満足できる割合が2.8%増加しました。

今後は、生徒にとって安心安全な学校、所属感のある学級づくりをめざすとともに規範意識や勤労奉仕の精神等を育み、生徒と教職員のよりよい関係性を築いていきます。また、「定期的な生活に関するアンケート」を継続・実施し、生徒理解・いじめや問題行動等の発見・防止に努めていきます。さらに、生徒会活動の充実を図り、生徒一人一人がよりよい学校生活を送れるようにしていきます。すべての教育活動を通して、PBS（ポジティブな行動支援）を行うなかで、群青（生活記録）の活用の工夫等も含めて、スピード感をもってさまざまな取り組みを実践していきます。

「人権教育・進路指導」の分野（設問15～20）

設問項目15「自分にはよいところがある」、設定項目17「勉強や運動等で、友人から認められていると思う」では、昨年度から概ね満足できる割合が2～3%増加しました。「夢・心づくり塾」の開催等を通じて、講師先生の経験や未来の自分に向けたメッセージ等を受けて、生徒自身が考え、行動に移している成果だと考えます。また、グループ担任制を通して、ローテーションで人権学習・総合的な学習の時間等で授業を行うことで、生徒の道徳心を豊かにできるように取り組みました。さらに、重点項目のひとつである設問項目20「夢や目標をもち、その実現に向けて努力を続けている」では、昨年度よりも概ね満足できる割合はやや減少しましたが、今後も適切な支援ができるように校内研修を行い、キャリア教育の充実を図っていきます。あらゆる教育活動の場面で道徳的意義を生徒に伝えたり、学校新聞等で各家庭へ発信することも行っていきます。

「自主・自律」の分野（設問21～25）

設定項目24「朝は、決まった時間に起きている」では昨年度より概ね満足できる割合が14.5%減少しています。ライフスタイルアンケートの結果も含め、規則正しい生活が送れるように、「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図り、学校全体で取り組んでいきます。また、設問項目21「物事がうまくいかない時、ねばり強くがんばり続けることができる」については、約3%の増加が見られ、何事にもこつこつと取り組む習慣が身につけてきていると思われれます。さらに、設定項目25「インターネットやゲーム等の利用は、ルールを決めて使用している」では、各家庭でルールを決めて使用している状況が見られ、昨年度より概ね満足できる割合が増加しています。その他の項目についても生徒たちが自ら考え、実行できるように各家庭と協力・連携した取り組みを行っていきます。

「地域連携・安全教育・環境教育」の分野（設問26～28）

重点項目のひとつである設問項目26「地域の行事などに参加している」では、今年度も概ね満足できる割合が増加しました。昨年度から生徒が進んで幼小中一貫教育における「せとっ子あいさつ運動」や「せとの子ども食堂」へのボランティア等への参加を通して、地域一体となって取り組んでいる成果だと考えます。また、防災・安全教育についても授業等においてフェーズフリーを推進していきます。さらに、避難訓練や交通安全指導等をくり返し行い、南海トラフ大地震に備え、学校・家庭・地域社会が連携した取り組みができるように情報を発信していきたいと思えます。